

五島の魅力を発信し、 世界に誇れる“しま”をつくる

数値目標	現 状	目 標
観光客入り込み客数	203,765 人 (平成 26 年)	260,000 人 (平成 31 年)
延べ宿泊数	154,253 泊 (平成 26 年)	197,000 泊 (平成 31 年)
UI ターン者数 (ワンストップ窓口利用者)	18 人 (平成 26 年度)	50 人 (平成 31 年度)

【基本的方向】

●おもてなしの心で、再び訪れたいくなる“しま”をつくる。

教会群の世界遺産登録と日本遺産の推進、ジオパークへの取り組み、山本二三美術館（仮称）の開設など、地域資源を活用した魅力づくりに取り組むとともに、すべての市民のおもてなしの心の醸成と、来島者のニーズに応えられる環境整備を進め、国内外の観光客の増大とリピーターの増加を図ります。特に市場拡大が著しい巡礼ツアーなどへの外国人訪日旅行（インバウンド）対策の充実を図ります。

●UI ターン者をサポートし、住み続けたいくなる“しま”をつくる。

高校生は卒業時に、進学又は就職のため島外に流出しています。一方で 20 代後半に転入者が転出者を上回る動きも見られます。

就業や住まいなど、UI ターン者の定住に関する不安解消にむけ、環境整備の取り組みを強化します。

●スポーツを通じて交流する“しま”をつくる。

五島市が自然環境や社会環境からスポーツ合宿に適した地であることを発信し、誘致を進め、子どもたちには選手との交流により一流の技術を学ぶ場を提供します。また、企業などの保養地としての可能性など新たな交流も展開します。

●五島の魅力を発信し、世界に誇れる“しま”をつくる。

五島市の情報を戦略的に発信するため、ターゲットと発信する情報を整理し、効果的なプロモーションを推進することで地域ブランドの確立を図ります。また、関係者と連携し、民泊での体験型観光をはじめ、バラモンキング（トライアスロン大会）、夕やけマラソン、五島つばきマラソン、椿まつりなど様々なイベントの開催や交流に加え、新たな観光資源の発掘に取り組み、交流人口の拡大による経済効果の創出を目指します。

2-(1) 観光による交流拡大プロジェクト

戦略的なプロモーション活動と島内での観光コンテンツ整備により、国内外の観光客の誘客強化を図るプロジェクト

①国内誘客の強化

- 魅力ある着地型旅行商品の開発
- 新しまとく通貨制度(仮称)の創設
- 観光ガイドの育成とおもてなし研修などの開催
- 資源を活かした観光企画づくり

②国外誘客の強化

- 外国人観光客の誘致
- 観光音声案内アプリの開発
- 観光ガイドなどの受入体制整備



重点分野

③世界遺産ツーリズム

- 魅力ある観光コースづくりと広域観光ルートの形成
- 世界遺産ガイドの育成



④民泊・教育旅行の強化

- 民泊の担い手拡大など受入体制の強化
- 特色ある体験プログラムなどの充実
- 体験型観光の誘致活動・情報発信の強化
- 民泊事業の多角化
- 体験型観光のコーディネート力の強化



⑤世界ジオパークの推進

- 世界ジオパーク認定への取り組み

受入対策

⑥観光インフラ整備

- 誘導サインなどの整備
- 観光施設の整備



⑦ホテル・旅館などの再生

- 観光産業後継者対策総合支援事業の創設
- ホテル・旅館などの誘致

重点事業①

国内誘客の強化

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
着地型旅行商品の利用客数	382 人 (平成 26 年度)	3,300 人 (平成 31 年度)
観光ガイド講習会などの受講者数	88 人 (平成 26 年度)	150 人 (平成 31 年度)
観光ガイド登録者数	53 人 (平成 26 年度)	100 人 (平成 31 年度)
受入のための講習会などの受講者数	—	150 人 (平成 31 年度)
大型船誘致数	2 隻 (平成 26 年度)	3 隻 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

魅力ある着地型旅行商品の開発

五島市観光協会による新たな着地型旅行商品の造成などを後押しし、個人観光客の一層の取り込みを図ります。

新しまとく通貨制度(仮称)の創設

県内離島市町と連携し、観光客に特化した「新しまとく通貨制度(仮称)」を創設します。

観光ガイドの育成とおもてなし研修などの開催

キリスト教の歴史紹介をはじめ、五島の魅力を伝えることができる質の高い観光ガイドを育成します。また、観光客へのおもてなし力の向上を図るため、宿泊業者を中心に先進地視察や受入研修を行うとともに、観光案内所の機能向上に取り組み、再度来島するようなおもてなしができる体制を整えます。

資源を活かした観光企画づくり

恵まれた自然や歴史は、五島特有の地域資源です。引き続き、教会群、洋上風力発電、椿、マグロなどの地域資源を交流人口の拡大に活かすとともに、新たに国の名勝指定「三井楽(みみらくのしま)」、日本遺産、山本二三美術館(仮称)などを活かした観光企画づくりに取り組みます。

重点事業②

国外誘客の強化

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
外国人観光客数	618 人 (平成 26 年)	1,700 人 (平成 31 年)
外国人対応ガイド登録者数	—	10 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

外国人観光客の誘致

海外（韓国、中国など）からの旅行団体の誘致を図るため、大手旅行代理店などへの情報発信、営業活動を強化します。

観光音声案内アプリの開発

外国人観光客をはじめ、周遊型観光・体験型観光を楽しむ観光客に対し、スマートフォンなどを利用して観光スポットなどを紹介する観光音声案内アプリの導入を行うとともに、情報の内容を充実します。

観光ガイドなどの受入体制整備

外国人観光客に五島の魅力を伝えることができる質の高い観光ガイドの育成や、宿泊業者などのおもてなし力の向上を図り、受入体制を整備し、認知度を高めま

す。

重点事業③

世界遺産ツーリズム

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
世界遺産関連ツアーへの参加者数	266 人 (平成 26 年度)	2,500 人 (平成 31 年度)
世界遺産ガイド登録者数	—	30 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

魅力ある観光コースづくりと広域観光ルートの形成

世界遺産登録を機に、構成資産である旧五輪教会堂と江上天主堂や、歴史遺産群の堂崎教会などの魅力・物語を満喫できるツアーの造成や、魅力あるコースづくりを行います。

また、世界遺産において関連する各市町（長崎市、大村市、新上五島町、小値賀町など）と連携し、周遊・滞在を促進する広域観光ルートを形成し、誘客を拡大します。

世界遺産ガイドの育成

世界遺産を機に増加する外国人観光客などに基督教の歴史など、きめ細かな案内ができる質の高いガイドを育成します。

重点事業④

民泊・教育旅行の強化

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
民泊許可軒数	81 軒 (平成 26 年度)	150 軒 (平成 31 年度)
教育旅行受入人数	666 人 (平成 26 年度)	5,000 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

民泊の担い手拡大など受入体制の強化

体験型観光地としての認知度と集客力を高めるため、民泊軒数を拡大し、新規開業や環境整備への取り組みを後押しするとともに、市内 11 地区の受け皿組織の強化とネットワーク化を支援します。

特色ある体験プログラムなどの充実

他地域との差別化により集客力を高めるため、海を活かした体験プログラムの開発・充実を図るなど、島ならではの特色あるプログラムの整備を支援します。

さらに、雨天時にも安心して釣りが体験できる環境の整備へも取り組みます。

体験型観光の誘致活動・情報発信の強化

一般旅行及び教育旅行の誘致拡大を図るため、ターゲットに応じた営業・支援ツールの整備や効果的な情報発信を強化するとともに、東京事務所・福岡事務所を活用した積極的な誘致活動を展開します。

民泊事業の多角化

民泊事業の多角化により誘致拡大を図るため、修学旅行や団体ツアー向けの取り組みに加え、長崎県立大学「しまなび」プログラムやイベント時の受け入れ、島暮らしを求める個人・小グループ旅行などへの対応を強化します。

体験型観光のコーディネート力の強化

体験型観光の持続可能な受入システムを構築するため、五島市観光協会のコーディネート力の向上を後押しするとともに、各地区の受け皿組織や関係団体と連携しながら、官民一体となって受入体制を強化します。

重点事業⑤

世界ジオパークの推進

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
世界ジオパーク認定	—	申請 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

世界ジオパーク認定への取り組み

五島の豊かな自然資源は、地球科学的に重要な自然の遺産であり、文化遺産です。保全や教育、ツーリズムに活用するため、世界ジオパーク認定に向けて取り組みを進め、交流人口の拡大につなげます。

重点事業⑥

観光インフラ整備

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
4か国語表記の観光案内板、誘導板設置数	135 箇所 (平成 26 年度末累計)	200 箇所 (平成 31 年度末累計)
Wi-Fi など設置箇所数	1 箇所 (平成 26 年度末累計)	21 箇所 (平成 31 年度末累計)
トイレ整備・改修箇所数	—	4 箇所 (平成 31 年度累計)

〔具体的な施策〕

誘導サインなどの整備

観光客が必要とする観光情報を適切に提供するため、案内標識などの整備充実を図るとともに、外国人観光客に対応した4か国語標記の観光案内板の整備や、主要観光地において五島市マップの案内板を整備し、観光客の利便性を図ります。

観光施設の整備

観光客の快適性・利便性の向上を図るため、市内の観光ルートにトイレを整備するとともに、既存トイレについても必要な改修などを行います。

また、世界遺産登録を見据え、サテライトセンター（案内施設）、駐車場などの受入体制も整備します。

重点事業⑦

ホテル・旅館などの再生

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
後継者対策制度の活用事業所数	—	9 事業所 (平成 31 年度末累計)
改修支援制度の活用事業所数	—	40 事業所 (平成 31 年度末累計)
おもてなしセミナーなど参加者数	—	90 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

観光産業後継者対策総合支援事業の創設

10年後を見据えた観光産業の後継者対策として総合的な支援制度を創設します。

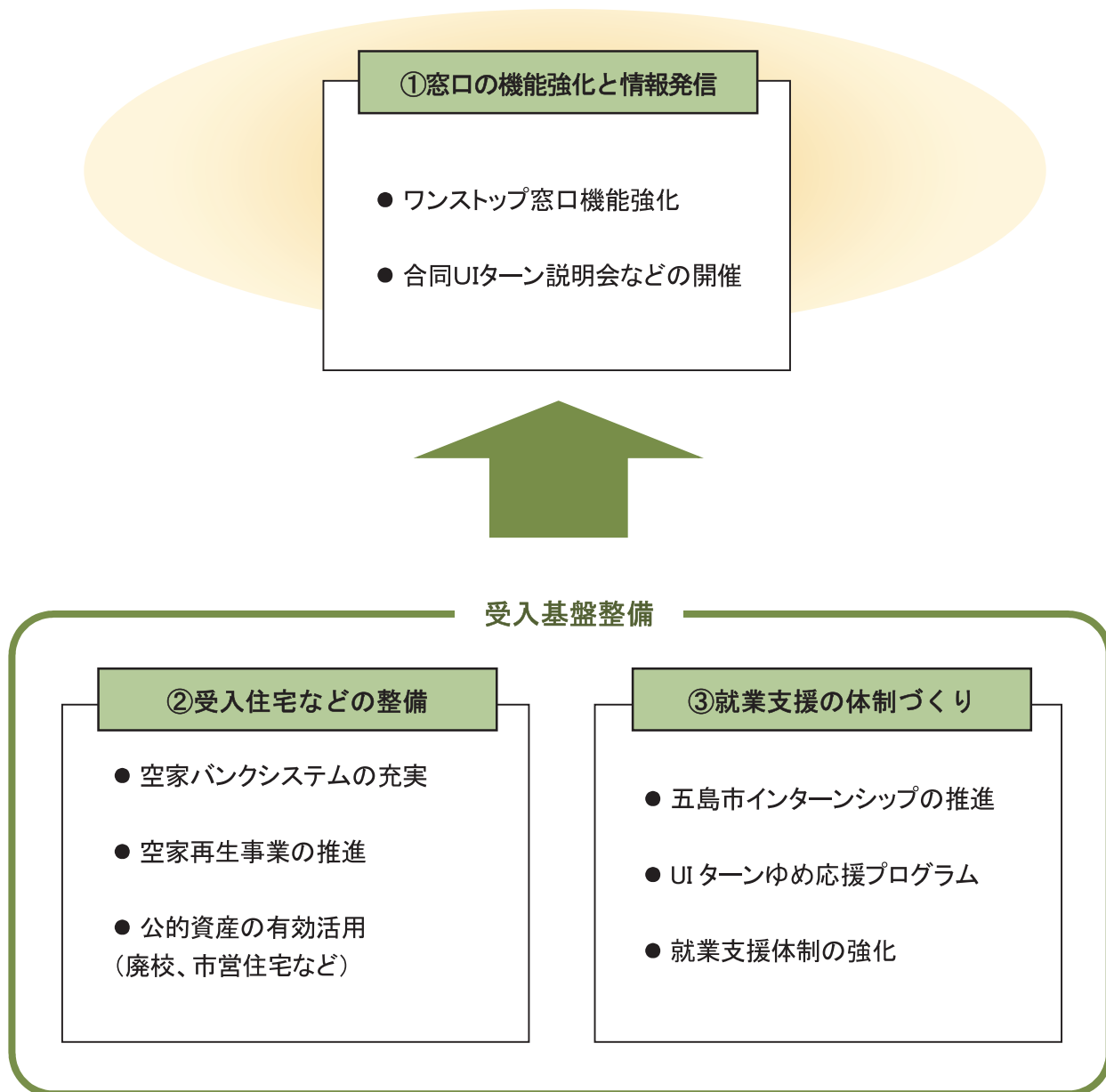
- ①観光産業の後継者対策として新たな研修制度を創設
- ②観光関連施設の改修支援制度を創設
- ③小規模の旅館・民宿などの利用を促進

ホテル・旅館などの誘致

新たなホテル・旅館などの誘致を図るため、候補地や支援制度を検討するとともに、関係事業者への継続的な情報発信などを行います。

2-(2) UIターン促進プロジェクト

ワンストップ窓口の整備による情報発信・受入体制の強化と住まい・仕事の確保などによるUIターン促進を図るプロジェクト



重点事業①

窓口の機能強化と情報発信

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
ワンストップ窓口(仮称)への相談件数	161 件 (平成 26 年度)	200 件 (平成 31 年度)
40歳未満の UI ターン者の移住者数	9 人 (平成 26 年度)	20 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

ワンストップ窓口機能強化

UI ターン希望者が、移住から定住に関する相談ができるワンストップ窓口を設置し、起業、就農、就漁などあらゆる相談が可能な体制を整備します。

また、ひとりひとりにきめ細かなサービスを提供できるよう窓口の充実を図り、移住後のフォローアップ体制を強化します。

合同UIターン説明会などの開催

県、県内離島市町と連携し、合同UIターン説明会を開催し、移住・定住希望者への情報発信、移住相談会を実施します。

重点事業②

受入住宅などの整備

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
短期滞在者住宅の利用者数	19 人 (平成 26 年度)	30 人 (平成 31 年度)
空き家バンクへの登録数	—	150 軒 (平成 31 年度末累計)

〔具体的な施策〕

空き家バンクシステムの充実

移住者の定住のため、希望が多い家庭菜園付き住宅の登録数の拡大を図るなど、空き家バンクの充実に取り組みます。

空き家再生事業の推進

移住者の定住のため、地元産木材を活用し、空き家を再生する人に対し、その改修費などを支援する制度を推進します。

公的資産の有効活用（廃校、市営住宅など）

伝統工芸・芸術分野で活躍を目指す人の工房や、展示室としての活用について、廃校などの公的資産の情報を発信し、その有効活用を目指します。

重点事業③

就業支援の体制づくり

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
お試しツアーなどの利用者のうち移住者数	—	5 人 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

五島市インターンシップの推進

県立大学など、五島と関連が深い大学を対象に、地元企業などにおいてインターンシップを実施し、五島で働く魅力、楽しみを知ってもらう機会を創出します。

U I ターンゆめ応援プログラム

農業、漁業を目指す若者などを対象に、農業、漁業の専門家との交流、農漁業体験、移住相談などにより、就農・就漁、移住へつながるようなお試しツアーを造成します。

就業支援体制の強化

U I ターン希望者に対し、円滑に希望する職に就けるよう、市、関連機関、企業が連携し、サポート体制を強化します。

2-(3) スポーツを通じた交流拡大プロジェクト

企業や大学などのスポーツ合宿の誘致による交流人口の拡大と経済活性化を図るプロジェクト

①誘致活動強化

- スポーツ合宿にかかる新規営業の強化及び新たな支援制度の導入
- スポーツ合宿誘致体制の強化
- 大学・有力企業などへのスポット営業



②スポーツ施設整備

- 既存スポーツ施設の整備と充実



③地域経済活性化対策

- 地元関連業種タイアップ企画
- スポーツイベントの開催拡充



重点事業①

誘致活動強化

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
スポーツ合宿の団体数	71 団体 (平成 26 年度)	100 団体 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

スポーツ合宿にかかる新規営業の強化及び新たな支援制度の導入

長崎、福岡地区の高校、大学を中心にスポーツ合宿にかかる誘致を強化します。また、選手などの市内移動を支援するなど、合宿する団体の負担軽減、利便性の向上を図ります。

スポーツ合宿誘致体制の強化

合宿誘致にかかる専門的なアドバイス、調整ができる人材を育成し、ワンストップで対応できる誘致体制を整えます。

大学・有力企業などへのスポット営業

駅伝、マラソン、柔道など、特定種目に特化した有名大学、企業などへ重点的なスポット営業を強化し、定例的な合宿につなげます。

重点事業②

スポーツ施設整備

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
スポーツ施設利用者数	1,217 人/日 (平成 26 年度)	→ (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

既存スポーツ施設の整備と充実

既存スポーツ施設の改修や、スポーツ合宿誘致に寄与するトレーニング機器の新設・更新を実施することで、合宿団体数、合宿参加者数の増加と市民の施設利用者の増加につなげます。

重点事業③

地域経済活性化対策

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
スポーツ集客イベントへの参加者数	4,575 人 (平成 26 年度)	6,000 人 (平成 31 年度)
スポーツ集客イベントの開催数	3 大会 (平成 26 年度)	4 大会 (平成 31 年度)

〔具体的な施策〕

地元関連業種タイアップ企画

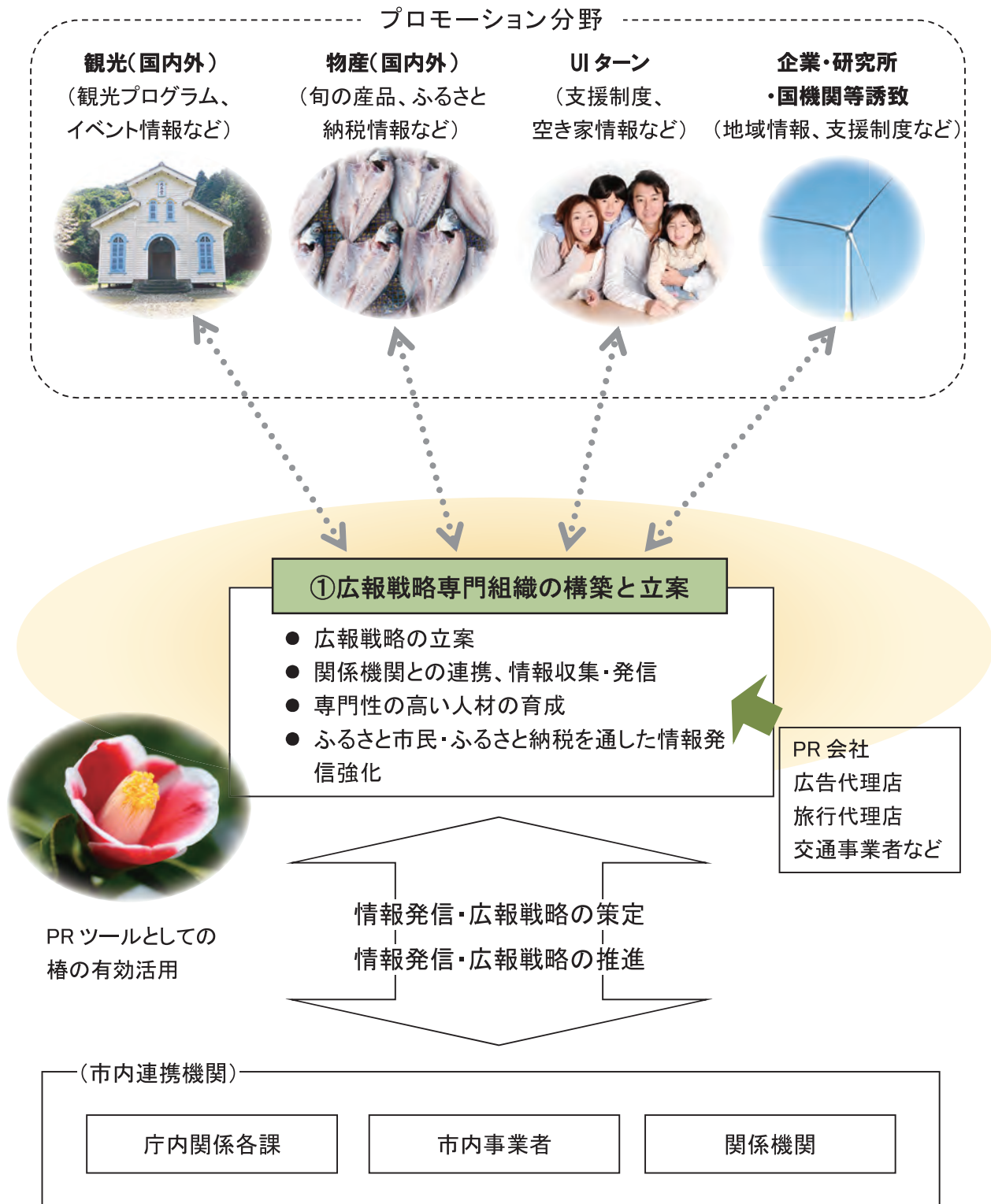
スポーツ合宿に関連する業種（レンタカー、整骨院、マッサージ、クリーニング、飲食など）と連携したサービスが提供できる体制を整え、リピーターの増加につなげます。

スポーツイベントの開催拡充

五島長崎トライアスロン大会、五島列島夕やけマラソン、五島つばきマラソンなどのスポーツ交流イベントを継続して開催するとともに、ねんりんピックや各種県大会の誘致・開催に取り組み、交流人口の拡大につなげます。

2-(4) 広報戦略プロジェクト

観光・物産・UI ターン・企業誘致などに関する情報発信などを統一的なコンセプトをもってワンストップで対応するプロジェクト



重点事業①

広報戦略専門組織の構築と立案

〔重点業績評価指標(KPI)〕

指標名	基準値	目標値
都市部での五島市の認知度	—	初回調査+10.0% (平成31年度)
ホームページアクセス数	1,340 千件 (平成26年度)	2,000 千件 (平成31年度)

〔具体的な施策〕

広報戦略の立案

情報発信、広報活動を取り組む分野とそのターゲットを明確にし、短期・中期・長期の情報発信・広報戦略を立案します。

関係機関との連携、情報収集・発信

市内事業者、関係機関などと連携し、戦略をもって情報の収集・発信に取り組み、地域のイメージを高め、経営資源の獲得とその有効活用を目指します。

専門性の高い人材の育成

広告関連やIT関連など専門性の高い人材を登用するほか、資格の取得、技術の習得などが行えるような環境を整え、戦略的に地域を広報できる人材を育成します。

ふるさと市民・ふるさと納税を通じた情報発信強化

ふるさと市民制度やふるさと納税を通し、戦略的に五島のイメージ、五島の製品の情報を発信し、認知度の向上と物産振興につなげます。

